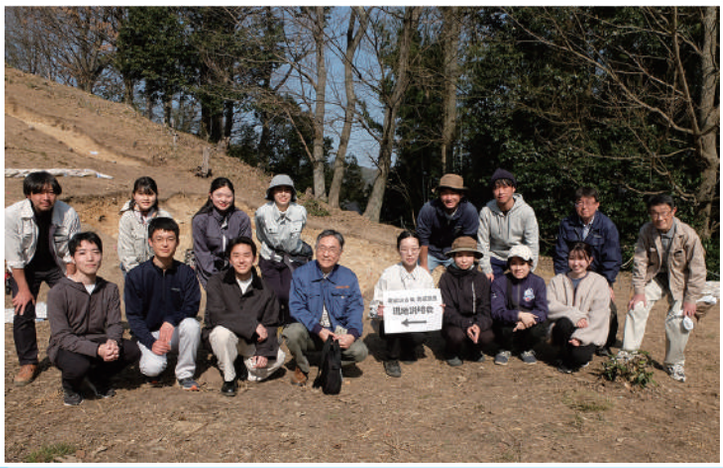

2023 年度

愛宕山古墳 発掘調査の成果

2024 年 3 月 31 日

大阪大学考古学研究室

所 在 地：兵庫県三木市別所町下石野
調査主体：大阪大学考古学研究室
協　　力：三木市教育委員会・市史編さん室
調査期間：2024 年 2 月 29 日～ 3 月 20 日

はじめに

大阪大学考古学研究室では、三木市教育委員会・市史編さん室の協力のもと、別所町下石野所在の愛宕山（あたごやま）古墳（下石野（しもいしの）５号墳）の発掘調査を実施しています。愛宕山古墳は、美嚢（みのう）川と加古川とが交わる、交通の要衝に築かれた前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）です。愛宕山古墳が築かれた古墳時代（３世紀中ごろ～６世紀）には、全国各地で古墳が築かれ、その総数は大小含め 16 万基以上と言われています。その中でも愛宕山古墳のような大規模な前方後円墳は、当時の政治の中心である「ヤマト政権」との深いつながりを示すものと考えられています（図１）。

一方で愛宕山古墳では過去に墳丘部分を対象とした発掘調査はなされておらず、また築造時期の手がかりとなる埴輪（はにわ）資料もわずかしか得られていませんでした。そこで大阪大学考古学研究室では 2022 年度より、墳丘の構造や古墳が造られた時期の解明を目的として発掘調査を開始しました。今回は３か年の計画のうち２年目にあたり、後円部の裾を明らかにする目的のトレンチ（南トレンチ）と、墳丘の段築（だんちく）（階段状に墳丘を形づくること）構造の解明を目的とした北トレンチの２か所を設定しました。

図１　現在の愛宕山古墳
【上：前方部北西隅より、下：後円部南側より】

発掘調査の成果

北トレンチの成果　北トレンチではその大部分で、赤みのある固く締まった土が検出されました。墳丘を作る際に施した盛土であると考えられます（図２左下）。この盛土斜面の途中、トレンチの中ほどで傾斜が

図２　各トレンチの成果

【上：北・南トレンチ全景（南西より）、左下：北トレンチ全景（南西より）、右下：石列部分の拡大（南より）】

緩くなる箇所があり、平坦ではないものの、墳丘の斜面と斜面の間に巡るテラスにあたる可能性が考えられます。またトレンチの南端付近では葺石の一部と考えられる人頭大の礫群が検出されました。ただし他の地点における石材の量などから、葺石は墳丘の全面ではなく一部にのみ施されていた可能性も考えられます。

南トレンチの成果　　トレンチの北側では、東西方向に走る石列が 2.5mにわたって残存していました（図２右下）。石列が設置された土の特徴などから、この石列は墳丘構造の一部であったと考えています。通常はテラス面を設けて墳丘を階段状に区画しますが、愛宕山古墳の場合は少なくとも墳丘最下段は石列によって区画されていたものと考えられます。

　トレンチの南側では、こぶし大の礫が多く含まれる黄褐色の層（地山層）から、大きな礫を含まず赤みのある層への切り替わりが認められました。これより南では傾斜が緩くなって

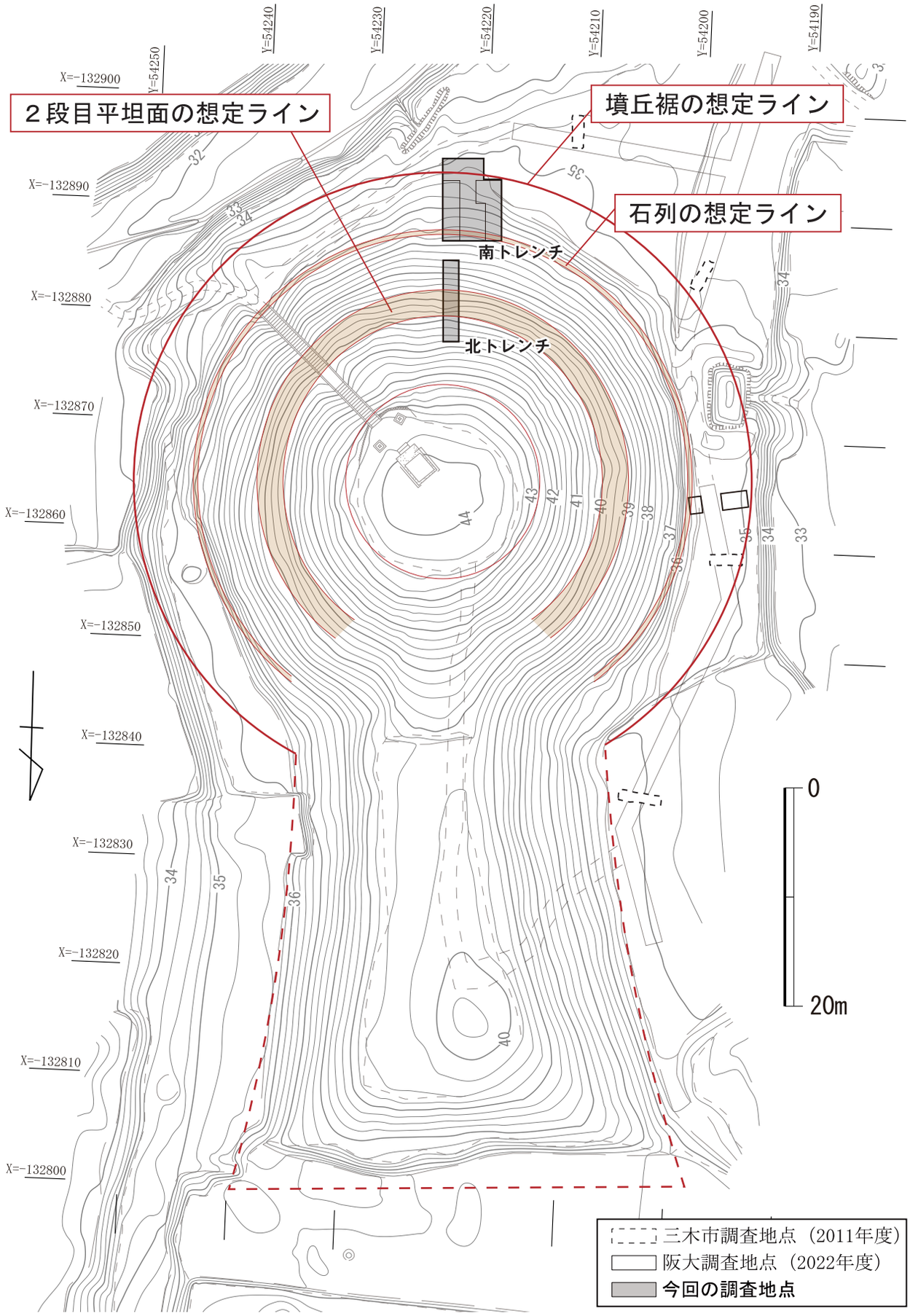

図３　愛宕山古墳　調査区配置と墳丘復元図
（大阪市立大学岸本直文研究室作成の図に補筆）

いることから、このラインが古墳の南側の端を示していると考えられます。

出土遺物　今回の調査では70 点をこえる埴輪・土器の破片が確認されました。これらの多くは古墳築造当時に墳丘の上に立て並べられていた円筒埴輪の一部で、直径 50cm 近い大型品です。突帯（とったい）付近に連続した刻み目を施すという特徴的な技法が確認されています（図４）。また底部の端付近で面取り調整を施す特殊な技法を用いていることもわかりました。埴輪の特徴から、古墳が築かれた時期が古墳時代前期でも中ごろ（４世紀初めごろ）以前に遡る可能性が高くなりました。今後、埴輪の特殊な装飾方法の系譜を分析することで、遠隔地との交流を推定できる可能性もあります。

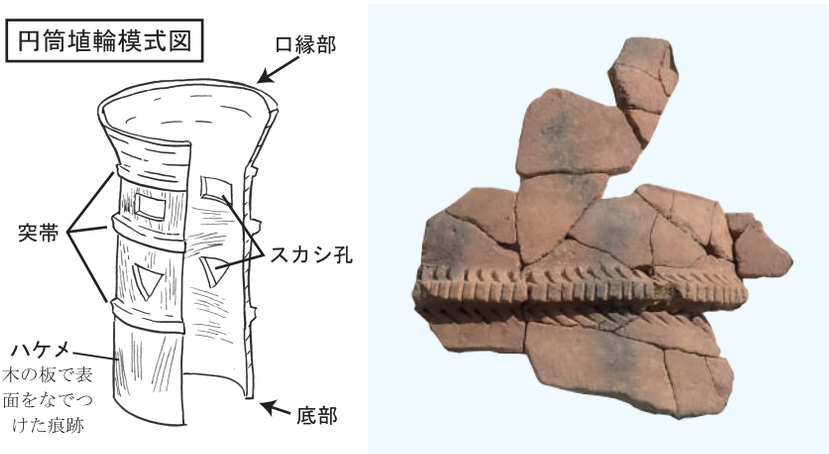

図４　円筒埴輪の模式図と愛宕山古墳出土埴輪片

おわりに

今回の成果をまとめると、①後円部は３段に築かれた可能性が高いこと、②後円部最下段の石列による区画や特殊な装飾を持つ埴輪など、個性的な要素を多く持つこと、③埴輪の製作方法などからこれまで考えられてきたよりも時期が遡ると考えられること、となります。また、最終的な確定は前方部の調査を経てからとなりますが、墳丘全長は 93m程度となる可能性が考えられます。加古川流域でも早くに築かれた大型前方後円墳として、当地域の古墳時代像を見直すうえできわめて重要な古墳であるといえるでしょう（図３）。

来年も引き続き愛宕山古墳での発掘調査を予定しています。また良い成果をご報告できるよう取り組んでまいりますので、引き続きのご理解、ご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。最後に、今回の調査において多大なるご協力をいただいた三木市教育委員会、市史編さん室をはじめ、別所ふるさと交流館のみなさま、そして地元である下石野のみなさまに、改めてあつく御礼申し上げます。

図５　現地説明会のようす

今回の調査は、科学研究費補助金によるプロジェクト「初期ヤマト政権の地域統合原理の解明と比較考古学的手法によるその人類史的評価」ならびに『新・三木市史』考古資料編刊行に向けての調査プロジェクトに基づくものです。

2023 年度
愛宕山古墳発掘調査の成果
2024 年 3 月 31 日
編集・発行：大阪大学考古学研究室